

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望 = ドル円は底堅いが上値を大きく伸ばしにくい展開か

[9月27日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		9月20日～9月24日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	109.94	110.54(24)	109.12(22)	110.51	+0.58
ユーロ・ドル	1.1734	1.1755(22)	1.1684(23)	1.1737	+0.0012

=====

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	30,248.81	-251.24	日本10年債利回り	0.054	+0.013
ダウ平均株価	34,764.82	+179.94	米10年債利回り	1.430	+0.069

=====

<来週の主要経済統計等>

- 27日 日本7月景気動向指数改定値
米8月耐久財受注速報値
- 28日 豪8月小売売上高
米7月住宅価格指数
米7月S & Pケースシラー住宅価格指数
米9月消費者信頼感指数
欧州中央銀行 (ECB) フォーラム (28～29日、オンライン)
(黒田日銀総裁、パウエルFRB議長らがパネル討論会に参加)
- 29日 ユーロ圏9月景況感
カナダ8月鉱工業製品価格
米8月中古住宅販売成約指数
自民党総裁選の投開票
- 30日 日本8月小売業販売額、日本8月鉱工業生産指数速報値
中国9月製造業購買担当景気指数
豪8月住宅建設許可件数
中国9月財新製造業購買担当景気指数
英第2四半期国内総生産 (GDP) 確報値
スイス9月KOF先行指数
独9月雇用統計
ユーロ圏8月雇用統計
独9月消費者物価指数速報値
米新規失業保険申請件数
米第2四半期国内総生産 (GDP) 確報値
米9月シカゴ購買部協会景気指数
- 1日 日本8月有効求人倍率、日本8月雇用統計
日銀短観 (9月調査)
独9月製造業PMI 確報値
ユーロ圏9月製造業PMI 確報値
独9月製造業PMI 確報値
ユーロ圏9月消費者物価指数速報値
米8月個人消費支出 (PCE) デフレーター、米8月個人所得・支出
米9月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値
米9月ISM製造業景況指数、米8月建設支出
中国市場は国慶節で休場 (1～7日)、香港市場も休場 (1日のみ)

【前回のレビュー】今回のFOMCで政策金利見通しが6月時点のように前回から大き

＜前倒しされるような事態となれば、110円台を固めて111円台に乗せて一段高となり、一方、そこまでのサプライズがなくとも、金利の先高観を感じさせる見通しが示されれば、110円台に乗せて堅調な推移となるとした。

【FOMCメンバーによる利上げ予想時期は前倒し】

21～22日に開催された米連邦公開市場委員会（FOMC）では政策金利は据え置きとなった。米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長は11月にも量的緩和の縮小（テーパリング）を開始する可能性があるとの見通しを示した。

声明では、「資産購入ペース縮小が近く正当化される可能性」「インフレは一時的要因で上昇」「経済と雇用は力強さを維持している」との見解が示された。FOMCメンバーによる政策金利見通し（ドットチャート）では、18人中9人が2022年中に利上げが必要になるとみている。前回（6月）は2023年予想となっていた利上げ開始が前倒しされた格好となった。

＜FOMCメンバーによる各種見通し：中央値（カッコ内は前回見通し）＞

* 政策金利

2021年末：0.1%（0.1%） 2022年末：0.3%（0.1%）
2023年末：1.0%（0.6%）

* 実質GDP

2021年 5.9%（7.0%） 2022年 3.8%（3.3%）
2023年 2.5%（2.4%）

* 失業率

2021年 4.8%（4.5%） 2022年 3.8%（3.8%）
2023年 3.5%（3.5%）

* 個人消費支出（PCE）の伸びの見通し

2021年 4.2%（3.4%） 2022年 2.2%（2.1%）
2023年 2.2%（2.2%）

FOMC声明も経済見通しもややタカ派的に傾いたといえる。ただ、市場の想定を大きく超えるような内容ではなく、利上げ時期の見通しが2022年に前倒しされた以外は、おおむね想定の内容に近い結果となった。ドル買いの動きに傾き、ドル円は109円台半ばから109円台後半まで上昇した。その後、ドル円は23～24日にも堅調な動きを続けて、110円半ばまで上昇している。

年内どこかでテーパリングの開始についてはすでに相場にかなり織り込まれており、ドルの一段の上昇はあっても緩やかなものとなりそうだ。一方で、巨大な負債を抱える中国の不動産大手である中国恒大集団の経営危機が警戒されており、「第2のリーマンショック」にならないが不安視する声も出ている。こうした中、ドル円は底堅いながらも上値を大きく伸ばしにくい展開が見込まれる。ドル円の目先の予想レンジは、109.00～111.50円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、27日に日本7月景気動向指数改定値、米8月耐久財受注速報値、28日に米7月住宅価格指数、米7月S&Pケースシラー住宅価格指数、米9月消費者信頼感指数、29日に米8月中古住宅販売成約指数、30日に日本8月小売業販売額、日本8月鉱工業生産指数速報値、米新規失業保険申請件数、米第2四半期国内総生産（GDP）確報値、米9月シカゴ購買部協会景気指数、1日に日本8月有効求人倍率、日本8月雇用統計、日銀短観（9月調査）、米8月個人消費支出（PCE）デフレーター、米8月個人所得・支出、米9月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値、米9月ISM製造業景況指数、米8月建設支出などがある。

【ユーロドルは売り一巡感から下げが一服か】

FRBによるテーパリング前倒し観測や中国恒大集団の経営危機を受けてのドル買いなどを背景にユーロドルは下落基調で推移してきた。1.17ドル割れまで沈んだ後は、1.17ドルを挟んでのみみ合いとなっている。

一時1.17ドルを割り込んだことで、8月20日の安値1.1664と合わせてダブルボトムを形成して、売り一巡感から下げ渋りを見せる可能性が高いとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは1.1600～1.1850ドル。なお、26日に実施されるドイツ連邦議会選挙後にドイツの政局で混乱が起きると、それが波乱要因となり、ユーロ売りの圧力となる可能性も出てきそうだ。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、28日に豪8月小売売上高、29日にユーロ圏9月景況感、カナダ8月鉱工業製品価格、30日に中国9月製造業購買担当景気指数、豪8月住宅建設許可件数、中国9月財新製造業購買担当景気指数、英第2四半期国内総生産（GDP）確報値、スイス9月KOF先行指数、独9月雇用統計、ユーロ圏8月雇用統計、独9月消費者物価指数速報値、1日に独9月製造業PMI確報値、ユーロ圏9月製造業PMI確報値、独9月製造業PMI確報値、ユーロ圏9月消費者物価指数速報値などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。